

会 議 録

会 議 録	山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議		
開 催 日 時	平成 23 年 11 月 24 日（木）午後 2 時 30 分～午後 4 時 20 分		
開 催 場 所	山陽小野田市役所 本庁舎 3 階 第 2 委員会室		
出 席 者	<p>市 民 代 表 麻野美智子、養護老人ホーム長生園 今 田 格 小野田ボランティア連絡協議会 尾崎 燎子、山陽小野田市社会福祉協議会 岡 本 志 俊 山陽小野田市民生児童委員協議会 河 口 軍 紀、特別養護老人ホーム高千帆苑 川 野 広 子 小野田在宅介護者の会とらいぼっど 佐伯友枝、市 民 代 表 白 川 涉 山陽小野田市小野田歯科医師会 多原康成、山口県理学療法士会 永 池 博 己 山陽小野田市地域包括支援センター運営協議会 中 島 嘉 哉、山陽小野田市老人クラブ連合会 平 田 武 小野田薬剤師会 藤 原 哲、山陽ボランティア連絡協議会 水 田 愛 子 小野田市医師会 森 田 純 一、山口県看護協会小野田支部 山 田 智 子</p>		
欠 席 者	<p>厚狭郡医師会 河村芳高 厚狭歯科医師会 野村忠正 山口県作業療法士会 信久美佐子 山口県薬剤師会厚狭支部 原田美智子 学識経験者(宇部フロンティア大学) 溝田順子</p>	委員数	21人
		出席者数	16人
		欠席者数	5人
事務担当課 及び職員	<p>山陽小野田市長 白井博文、 高齢障害課長 堀本正春、高齢障害課課長補佐 木本順二 介護保険係係長 古屋憲太郎、高齢福祉係係長 矢野亜希子 地域包括支援センター所長 尾山貴子、地域包括支援センター主任 荒川智美 高齢福祉係主任主事 村田直美</p>		
会 議 次 第	<p>1 市長あいさつ 2 会長あいさつ 3 会議（審議事項） 第5期高齢者福祉計画の審議について 4 その他</p>		
会 議 結 果	<p>1 について 市長があいさつを行なった。</p> <p>2 について 会長があいさつを行なった。</p> <p>審議に入る前に、委員から意見があった。 委 員：議事録を作成してほしい。</p>		

議長：議事録は毎回作成しておりホームページにも掲載してある。

3について

○第5期山陽小野田市高齢者福祉計画の基本フレーム（資料1）について、事務局が説明を行なった。
質疑はなかった。

○素案（第1章～第4章）について、事務局が説明を行った。
質疑等については以下のとおり。

委員：資料をみると、たくさんの貴重なデータを取られている。これを医療や介護にどのように反映し、いかに活用していくかが大事だと思う。

○素案（第5章～第8章）について、事務局が説明を行った。

p. 65 および p. 79 について差し替えがあった。

p. 96 「二次予防事業対象者プラン」表中の数字について訂正があった。

（訂正前）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
二次予防事業対象者数	2,544 人	2,617 人	2,710 人
二次予防プラン作成見込数	<u>127 人</u>	<u>157 人</u>	<u>190 人</u>

↓

（訂正後）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
二次予防事業対象者数	2,544 人	2,617 人	2,710 人
二次予防プラン作成見込数	<u>141 人</u>	<u>172 人</u>	<u>181 人</u>

質疑応答については以下のとおり。

委員：p. 106 (3)イ中の「レビー小体型認知症」とはどのようなものか。

事務局：アルツハイマーは異質なタンパク質が脳に蓄積されていくが、レビー小体型認知症はレビー小体という異質物が脳の細胞にたまるものである。原因が違うのでその症状も異なっており、レビー小体型認知症は、パーキンソンに似た症状や幻視などの症状がよくみられる

のが特徴である。

委員：介護や予防の対策について、健康に関するリテラシー、文献や報告書などを活用するべきだ。認知症や糖尿病の予防対策として栄養改善などを取り入れ、要介護状態の人を増やさないように少し方向転換していかないと保険料はどんどん上がる一方だ。

議長：生活習慣がいろいろな疾病のもとになっている。

○素案（第9章～第11章）について、事務局が説明を行なった。質疑応答については、以下のとおり。

委員：p.123(3)に関連して、温度の変動によることについても加えてほしい。

委員：p.124「養護老人ホーム」のところで、「今後も老朽化に伴う既存施設の改修等を図りながら、、、」とあるが、市内の養護老人ホームはかなり老朽化しているので、建て替えた方がよいのではないか。

事務局：予算が伴うものなので、計画的に考えている。

委員：要介護3が2になったり、要介護2が1になったりと介護度が軽くなるケースはどのくらいあるか。

事務局：悪い状態で介護認定申請をして要介護3になった場合に、その後の更新申請で軽くなるということはあるが、加齢が原因で要介護状態になった人は、劇的に回復する人はほとんどいない。

委員：施設入所後に、元気になって退所するというのは聞いたことがない。寝たきりなどにならないように、1年でも2年でも健康でいてもらうように予防していかないといけない。脳科学を利用してドーパミンをどんどん出しながらやってほしい。

委員：p.120 中に記述のある「独居」を「ひとり暮らし」に変更してほしい。

委員：p.128 中に記述のある「ふるさとづくり推進協議会」を「ふるさとづくり協議会」に変更してほしい。

委員：p.102 中に記述のある「苦情処理体制の整備」を「苦情解決体制の整備」に変更してほしい。

委員：p.131(5)介護支援ボランティア活動の推進に関連して、市広報 10/15 号にこれに関する記事が掲載されていた。活動内容の中に、「その他軽微な補助的活動」として、「シーツ交換」とあったが、これは軽微な仕事では

なく、大変な労働である。これは施設等がすべきことだと思うし、このように掲載されると、施設等の解釈の仕方によっては、この介護支援ボランティアにさせることもできるのではないか。

委員：以前、シーツ交換については、いろいろ病気もあるので、ボランティアではしないということになった。

事務局：介護支援ボランティア活動制度実施要綱にうたっており、施設職員と共に行なう補助的な活動ということで挙げてはいるが、それが軽微な仕事でないのであればシーツ交換はしない方向でこの活動を実施する。

4 について

事務局が次回の会議について連絡した。

次回会議は、12月22日（木）16時30分から17時開始として開催する予定。

～ 閉会 ～